

言語センターのe-Learningシステム

言語センター助手 横村 栄美

e-Learningについて

e-Learningとは、コンピュータやインターネット等のネットワークを利用しての学習を意味します。例えば、パソコン用学習ソフトを使っての学習や、インターネット、イントラネット（学内みのネットワーク）を通じての学習などを指し、語学学習に限ったものではありません。

本学では、今年度7月より、英語学習用e-Learningソフトが導入され、授業でも使用され始めました。このソフトは、イントラネットを通じて、英語の読解力、リスニング力の自習学習ができるようになっています。ソフトを導入して間もないこともあり、授業での使用はまだ少ないのですが、学生にとっては自分のペースで学習が進められるため、焦ることなく学習することができ、理解を深めることができるなど、好評です。システムやソフトなど、e-Learning環境は、これから必須の存在となっていくでしょう。

e-Learningシステムを備えたLL教室

本学2号館言語センター5階にあるLL教室は、今年度4月より、e-Learning対応のCALL（Computer Assisted Language Learning：コンピュータを使った語学学習）教室となりました。授業では、CD-ROM教材を使った授業や、LLシステムを使っての授業が行われています。私も2年生の英語科目の授業補助として、週2回、LL教室での授業を担当しています。

LL教室では、LLシステムとして、教員の声を学生のヘッドセットに一斉に送ったり、学生同士でヘッドセットを通してのペアレッスンをするなど、声のやり取りができる他、CALLシステムとして、教員のパソコンのデータを学生のパソコンに送ったり、全ての学生パソコンをモニタ

することなどができます。これらのシステムは語学授業用に作られたものとなっていますが、視聴覚教材の設備もありますので、語学以外の授業でも使用されることがあります。

言語センターマルチメディアライブラリについて

本学2号館言語センター4階には、学生が自習できるスペースとして、マルチメディアライブラリがあります。ここには、主に語学学習のためのカセットテープ、ビデオテープ、雑誌、パソコン用ソフトなどがあり、それらを使うためのデッキ類、パソコン、ブースを揃えています。また、本学の歴史に関する視聴覚資料なども保管されています。

学生は、授業時間の空き時間にライブラリを利用することが多く、パソコンソフトを利用した語学学習や、音声教材を使って語学検定の勉強などを行っています。授業で出された課題を行うためにライブラリを利用する学生も多く見られます。ライブラリを使用する学生は年々増えており、それに伴い、語学学習教材や視聴覚教材の充実を図っています。



e-Learning授業を受けてみて

経済学科2年 久保 溪女

私にとって、LL教室での英語の授業は、新しいことを発見する場所です。パソコンを前に自分のペースで黙々と学習するのももちろんいいのですが、この授業の魅力は、ヘッドセットを通じていろいろな人と言葉を交わす時間が設けられていることです。ペアになった相手と問題等の答え合わせはもちろん、お互いの意見を交換したり、疑問点を一緒に考えあったりできるので、課題の一つ一つにとっても真剣に取り組むことができますし、いろいろな人と会話するのはとても楽しく、学ぶことがとても多いです。生徒一人一人が責任を持って課題に取り組み意見を交換できる商大ならではの語学授業に、大学生本来の学ぶ姿勢も同時に学んでいるのだと思っています。



e-Learning授業風景。学生はヘッドセットで他の学生と会話する。誰が相手になるかは事前に知らされていない。